

山形大学人文学部生・大学院生が震災復興支援活動を行っています！

山形大学人文学部では、本年3月28日(月)に、人文学部生を中心とした「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」が東日本大震災の被災者支援のために設立され、支援活動を行っています。

3月11日の東日本大地震と大津波、福島第一原子力発電所事故による未曾有の大災害は、東北地方のみならず日本社会全体に対し、いかに復興を成し遂げ、再生をはかるか、そして、山形県民としていかに復興支援を行うかという課題を提起するものでした。震災後、人文学部では、地域連携室を中心に被災者支援・復興支援への参加を呼びかけたところ、人文学部生・大学院生の有志が集まり、「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」設立に至ったものです。復旧・復興には相当長期の時間がかかるという想定のもと、このプロジェクトは、ひとまず1年間の活動期間を設けて出発しています。

学生プロジェクトは、現在、人文学部の学生・大学院生を中心に数人の学部卒業生、社会人等の参加を得て学内外15人の構成メンバーで、被災者と被災地の支援活動を精力的に行っています。学生たちは、このプロジェクトをとおして、社会参加と社会貢献の意義、「復興」の実際の諸問題を学びます。

学生プロジェクトは、これまで、山形市内避難所(山形市総合スポーツセンター)でのボランティア活動に取り組みながら、宮城県東松島市と石巻市における復興支援活動として、①除菌水を作る機械の設置・除菌用品の提供、②炊き出し、③ヘドロの処理、④瓦礫の処理等の活動を行ってきました。また、被災地で使用する自転車・小型バイクの収集・修理・提供等も行っています。特に、被災地の床上・床下浸水家屋を中心とした住環境における衛生確保のために設置した除菌水を作る機械は高く評価されています。

これらの取り組みは、人文学部地域連携室の支援を受けながら、企業、社会福祉法人、NPO、大学周辺の業者等からなる、「学生プロジェクト・サポート企業ネットワーク」や被災地の協力家庭と連携して行われています。これらの活動は、8月1日(月)に、「3.11大震災 被災地支援学生ボランティア活動報告会」において、「人文学部震災復興プロジェクト・シーズン1～学生たちの4ヶ月～」と題して報告されました(人文学部ホームページ掲載)。

さらに、以上のような住環境の衛生確保を始めとするこれまでの様々な活動が評価され、学生プロジェクトは東松島市大曲浜地区の復興計画策定のための協力を依頼されました。今後の活動としては、住環境の衛生確保、復興計画策定への協力・提案と並行しながら、同地区を中心とした被災地域住民の話し相手等の活動を継続していくことになります。



ボランティア活動報告会の様子



石巻市内液状化の様子



カレーの炊き出しをしている様子



家屋の床下調査の様子